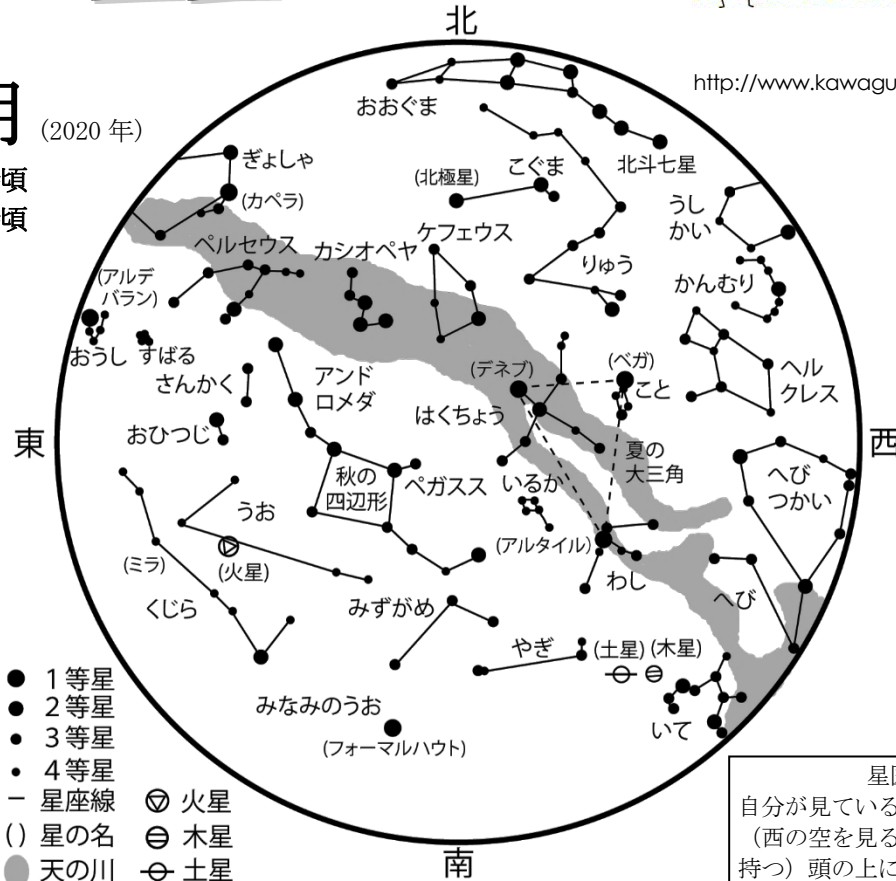


今月の星空



10月 (2020年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方向を下にして、
(西の空を見るときは西を下にして
持つ) 頭の上にかざして見ます。

月 齢 ○満月 2 日・31 日、●下弦 10 日、●新月 17 日、●上弦 23 日

惑星情報

金星 明け方 東 (しし→おとめ座 -4 等) 火星 夜のはじめ頃 東→南東 (うお座 -3→-2 等)
木星 夜のはじめ頃 南→南西 (いて座 -2 等) 土星 夜のはじめ頃 南→南西 (いて座 0→1 等)

★10月6日 火星最接近

秋の四辺形やカシオペヤ座などの秋の星座を見つけやすくなり、星空も秋が深まってきました。1等星がフォーマルハウト一つしかない星座の領域に、-2等以上に明るくなっている火星が見えます。

この火星は、6日には地球との距離が最も近くなる「最接近」を迎えます。地球の外側を公転する火星は、地球との位置関係や距離が常に変わり、右図のように、およそ2年2カ月ごとに地球に近づきます。同時に最接近となる位置も毎回少しずつずれていき、2018年のときのように、地球と火星の軌道の間隔が狭いところでは、距離が近いため「大接近」と呼ばれます。火星が遠くにあるときは、望遠鏡で見ても見た目が小さく表面の様子はなかなか観測できません。より詳しく観察するには今回のような距離の近い時期がチャンスです。今後の最接近で再び今年ほどに近づくのは2033年です。

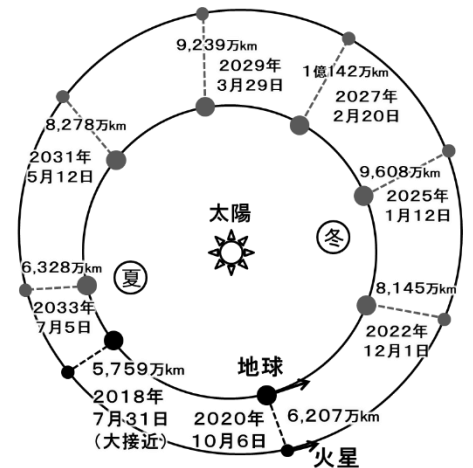


図 約2年2カ月ごとに起こる火星最接近の位置とその距離

★秋のお月見「十五夜(1日)」と「十三夜(29日)」

今年の中秋の名月(十五夜)は10月1日です。毎年日付が異なるのは、旧暦8月15日に出る月を中秋の名月としているためです。旧暦では月の満ち欠けの周期(約29.5日)をもとに、新月の日を1日(ついたち)としているため、15日の夜(十五夜)は、満月かそれに近い月が見られることとなります。また、旧暦9月13日は、十三夜(じゅうさんや)と呼ばれ、この日もお月見をする風習があります(今年は10月29日)。空気も澄んで月がきれいに見えるこの秋に、お月見をお楽しみください。

